

第1回『民族共生の象徴となる空間部会』議事概要

日 時：平成22年3月11日（木）13：25～14：35

場 所：永田町合同庁舎第3会議室

出席者：委 員：佐々木部会長ほか全委員出席

事務局：秋山審議官、内閣参事官ほか

傍 聴：法務省、外務省、文化庁、水産庁、国交省、北海道、札幌市

事務局挨拶（秋山室長）

議 事：

1 「民族共生の象徴となる空間」作業部会の今後の進め方等について（事務局説明）

- ・【資料1】趣 旨：2つの政策課題について具体的に調査検討
- ・【資料2】構成員：6名
- ・【資料3】背 景：有識者懇談会報告書の抜粋（歴史、アイヌの人々の現状、具体策 など）
- ・【資料4】本作業部会の当面の運営

2 主な意見

- アイヌ文化は、国際的には高く評価されている。我が国がアイヌ文化をどう考えるかという問題。アイヌの人々とアイヌ文化を学ぼうとする若者、海外研究者の交流の場にすべき。
- アイヌの人はもちろんであるが、国民全体にとっての意義をアピールすることも重要（多様で豊かな文化の享有等）。人骨研究の問題は、当時の国策によって生じたものであり、国の対応も必要。
- 近年、アイヌ協会の協力で人骨の研究成果が出てきている。人骨返還の必要性、日本人のルーツを調査する必要性と両方ある。人類学会としてもきちんと整理すべき問題と認識。
- 暗いイメージではなく明るく未来に向かっていくことが重要（官房長官の発言に同感）。広大な北の大地で、アイヌの自然観を学べるような空間、世界の先住民族との交流の場にすべき。一日も早い実現を。人骨は、研究の必要性を踏まえた上でどう扱うかという課題。
- 木彫、編物等の伝統工芸の担い手が不足。若いアイヌにどう継承していくか。フィンランドにはサーミの博物館、伝統工芸学校があり、参考になる。
- アイヌ協会内部や関東アイヌ等との調整役として貢献していく。アイヌの視点から見た日本、アイヌの価値観を発信し、世界に誇れるものとすべき。

3 作業部会における合意事項

- ・第2回目部会にアイヌの委員から意義、必要な機能等について提案。
- ・アイヌ委員の提案をもとに、文化、民族学、人類学、自然環境、産業・観光 等の様々な観点で専門的に検討（ヒアリングなど）。
- ・海外・国内事例等は事務局が委員の助言の下、関係省庁とも調整し整理願う。
- ・第2回以降の作業部会はイメージを膨らますため道内で開催。
- ・5月又は6月の第2回アイヌ政策推進会議で中間的に検討状況を報告。

4 その他 次回開催は4月（日程は別途調整）